

あの「プライド」に出演!!

中大スケート部主将・香川泰大さんの

キムタクに負けた

「Maybe……」。いまでも思い出しては、熱くなる。

いわゆる「月9」で話題を呼んだ「プライド」(フジテレビ系)の、キムタクの決めゼリフ。

アイスホッケーを通して友情と恋愛を描いた野島伸司脚本、

木村拓哉主演の豪華キャストのドラマ、1月—3月の放映だった。

じつは、わが中大アイスホッケーの選手たちもドラマに出演していた……のだ。

エンディング・ソングが流れるシーンに、ほんのすこしながら……。

とるものもとりにあえず、インタビューした。

間近で見たキムタクは? えっ、話もできたんですか?

学生記者 猪瀬智己(商学部2年) / 白田彩乃(同)

「気さくで、やはりカッコよかったですねえ。キムタクさんは」

香川泰大^{やすひろ}さんがホットに語る。法学部法律学科4年、中大アイスホッケー(スケート部)を率いるキャプテンである。以下も部を代表して語ってもらった。とっておきの「プライド余話」を――。

コーチから「どう、エキストラで」

きっかけといえば、スケート部の新田瑞晃コーチがドラマの撮影にあたって木村拓哉にホッケーの指導していたのだそう。そこで、「アルバイトとしてエキストラ出演してみないか」という依頼があったのだという。なんともうらやましい話である。「木村拓哉さんと一緒にリンクに立ってるなんてそう滅多にないことですよ!」と香川さん。ヨロコンデ、と部員も即決だったそう。

昨冬撮影、1泊2日

「ロケ弁もオイシくて」

撮影は長野県のビッグハットで行

われた。そう、98年長野オリンピックのアイスホッケー会場、あのリンクだ。ドラマに先立つ12月の後半、部員たちは1泊2日の日程で撮影に参加した。

テレビ局のバイトとはオイシイものなのか、それもぜひ聞いておかねば。ホテルはそれぞれセミダブルが用意されていたそう。1回の撮影につきだいたい1万円。1回では終わらないから、朝・昼・晩と参加すれば1万円千円。悪くない! 撮影現場での食事といえばロケ弁。どうでしたか? 「おいしかったですよ。釜飯でした」

キムタク、代役なしの「プロ意識」

さて当日、撮影は朝、昼、晩と3回に分けて行われた。そこで木村拓哉ら出演者たちの素顔に出会った。

その第一印象。「防具は10キロもあるの、よほど慣れないと大変なんですけどねえ。リンクに立つ木村拓哉に、ぼくらは圧倒されましたよ」さすが、サマになっているのである。

「Maybe……君は俺を好きになる」。木村拓哉演じる里中ハルが、竹内結子・村瀬亜樹に語るシーンが蘇る。……話を聞くとそばから。

「30歳くらいから、新しいスポーツ、それもホッケーを始めるのはとても大変なことですよ。だから、木村さんのドラマに懸けるプロ意識はものすごいと思いました」と舌を巻いたように。自分たちが15年やってきたものを数日でやってしまうのか、みたいに。

とか、まあそんな会話でしたけど」
貴重な体験である。さりげなく、かえって「共演者同士」のフツーの会話にも聞こえて。

坂口憲二に竹内結子…

ゴールキーパー役はこれまたナイ
スな坂口憲二。彼もすぐ目の前にいた。
「坂口さんは大きくて好青年という感じでしたね」

撮影のときにもファンに手を振る
などサービスを忘れなかったらしい。
女優陣はどうでした？ と、こちら
はもうミーハー丸出しである。

キャプテンはニツと笑った。

「竹内結子さんや石田ゆりさんは僕たちが撮影に入る前日に帰ってしまっていたんです。残念です」

会場で大きな声を出しながら応援
していたエキストラは、地元の長野
県民やファンクラブの人たちだった
そう。ドラマでは、試合が始まる
前に主人公ハルとともに片手で肩の

あたりをつかむ、『プライド』独特
のポーズをとっていたのがとても印

象的である。

新田コーチは、CMでのシュート・
シーンを担当したが、「ゴールネット
の網目4マス分を狙って」との監督
の注文で、コースは合っても微妙
な誤差のため、シュートすること20
回、いや30回。みんなが協力してド
ラマを作り上げる、そんな姿もひし
ひしと感じられたらしい。

中大部員は本編ではなく、エン
ディングのシーンに出演。初回のエ
ンディングのスタッフ・ロールには
「中央大学スケート部」の名前がしっ
かり出ていた。みなさん、お気づき
だったでしょうか？

この撮影の後も何回か声がかかっ
たが、テストの時期と重なったりし
て、結局行けなかったらしい。ドラ
マのほうは見えていましたか？と聞くと、「もちろん、見ましたよ。ホッケー部は寮生活なので、毎週、みんなで見えました」。

主将は強豪校から中大へ

つい、キムタクに、ドラマ話に夢



「得がたい体験」と
語る香川泰大主将

アイスホッケー＝氷上の格闘
技といわれるくらいだから、激しい
試合のシーンはきつと代役だろうと
思っていた。じっさい、「アレック

ドラマの中のハルは、滑りも華麗
そのものだった。相当前から練習
したんだだろうねと友だちと言っ
合ったものだが、香川さんは「練習
して6日目。それで木村さんは結構
滑れるようになっていましたね。運
動神経がすごいんだなあ」と。

気さくに「お互い疲れたねえ」

撮影の苦勞も、香川さんらは撮る
時だけが、俳優たちはスケート靴
を10時間以上も履きっぱなし。「そ
れでもカメラが回ればしつかりとや
りとげる。見事、というか」

撮影の合間、話だつてしたそうで
ある。

「ええ、とても気さくな感じだね」。
で、どんな話を？ 「疲れたよねえ、

中になって紹介が遅れたが、香川さんはアイスホッケーの強豪、駒大苫小牧高校（北海道）でキャプテンをつとめ、インターハイ8連覇を成し遂げた中心プレーヤー。同期の選手たちのほとんどはアイスホッケーの強豪大学に進んだのだが、香川さんは違った。

いくつもの有力校から誘いがあつたが、あえて中大を選んだ。「大学でも簡単に優勝できたら、また同じこと。今度は自分の力で何か変えてみたい」と。

コーチ迎えて戦力アップ

現在、部員は28人。大半が苫小牧出身だそうだ。創立60年、ここ25年くらい1部にいるのだが、まだ1度も優勝したことがない。

新田コーチの就任は去年の夏である。それまで、「実業団のコーチは入れない」という方針だったため、部員だけで練習&修正を重ねた。しかし、やはり部員たちだけではどうしても主観的になってしまう。優勝

するにはコーチが必要だと、新田氏にコーチ就任を要請した。新田コーチは、実業団・西武鉄道の元選手。現在も西武に籍を置きつつ、ボランティアとして指導してくれている。

「新田コーチがきてくれたお陰で、今まで見えなかった部分が見えてきてんです。実力はあつたと思うのですが、それをなかなか形にできないところがあつた。コーチにパフォーマンスの仕方を教えてもらいました」と香川さん。

これまで最高が準優勝。近年は5位止まりだったが、去年4位に。コーチが選手たちの本来持っていた実力を引き出したのだ。

野球やラグビーと違い大学内に練習場がないため、部員たちは普段、東大や東伏見のリンクを借りて練習する。堀之内で寮生活を送りながら、朝の6時半から体力づくりのランニング。リンクを使うのは週に3回で、7限の授業が終わった後に練習が始まる。そして、練習が終わった寮につく頃にはもう日付が変わっ

ているらしい。1限が入っている部員は「睡眠時間2時間」もマレではないそうだ。じつにハードな「文武両道」なのである。それでも、やる人はほとんどいない熱い集団。

寮では各自炊飯器を備えて自炊をしているそうだ。「誰かがカレーを作ってそれをみんなで食べたり……。あとは炒め物くらいしかできないです（笑）」

アイスホッケーは、キーパーを除くと5対5で行われる。ベンチには20人、キーパーは2人。20分の試合が3回、その間10分ごとの休憩があり、リンクに製氷車が入る。

また蘇る。……木村拓哉と竹内結子がリンクの上で製氷車に乗っての会話。木村「もつと一緒にいたい……」／竹内「ハルがね」／木村「亜樹がね」

秋・冬へ…中大の「プライド」

試合は春・秋のリーグ戦、夏のサマーカップ、冬のインカレと行われ

る。香川さんの出場は残り秋のリーグ戦と、来年1月のインカレだ。そして、卒業後はアイスホッケーから離れて就職する、という。「実業団でやるには小柄ですしね。ホッケーとは別のところで、一旗あげたい」という言葉が熱く聞こえた。

ドラマ「プライド」の影響でホッケー場に観客は多少増えたそうだ。しかし、やはり大半はOBの人たち。「中央大学の試合に、中大生の声援がほしいですね。決勝戦になると、立ち見もあります。1、2回戦はガラガラなんです。がんばっている中大生を見てほしいです」と香川さん。応援に行こうかしら。竹内結子の「華」などないけれど……。

「部の改革もうまくいって、上り調子」とキャプテンは言った。May be……「選手生活のすべてをかけて、狙いますよ、頂点を」

試合にかける思いなら「プライド」のブルースコーピオンズに負けていない、中大チームの「プライド」である。